

# 武蔵学園でカメラトラップにより初めて確認された イタチとみられる小動物, および学園の哺乳類相

白井 亮久  
(生物科)

## 要 旨

2023 年 10 月, 東京都練馬区の武蔵学園でイタチと思われる小動物がカメラトラップで確認された。東京都の区部西部でのイタチの生息情報は少ないため, 撮影の経緯とともに記録した。あわせて, これまで学園構内で確認された小型・中型哺乳類 8 種をリストした。

Keywords: アライグマ, 生き物地図, イタチ, 疥癬, タヌキ, 東京区部,  
都市動物, トラップカメラ, ハクビシン, ネズミ

## はじめに

東京都練馬区に位置する武蔵学園構内において, ニホンイタチ *Mustela itatsi* とみられる小動物が自動撮影カメラで撮影された。東京都区部でイタチは絶滅危惧種に指定され, 区部での生息・目撃情報は乏しいため, 今回の撮影された経緯とともに記録する。また, これまで学園構内で確認されている小型・中型哺乳類についてリスト化した。

## 1. 東京都のイタチの生息

ニホンイタチは食肉目イタチ科に属す日本固有の小型哺乳類である。水辺を好み, げっ歯類 (ネズミ), 鳥類, 魚類, 甲殻類のほか, 果実などの植物も利用する雑食性小動物として知られ, かつては日本全国に分布していたが環境の変化や西日本に移入された亜種シベリアイタチ (チョウセンイタチ) との競合により個体数が減少している (鈴木, 2018)。東京都レッドデータブック 2023 では準絶滅危惧 (NT) に指定され, 特に東京都区部での生息状況や生態の情報は皆無で, ほとんどわかっていない (東京都環境局自然環境部, 2023)。

## 2. 撮影の経緯 : ネズミの死体の分解過程の調査

武蔵学園構内でのカメラトラップによるイタチの撮影は, ネズミの死体の分解過程の調査中に確認された。以下にその経緯を示す。2023 年 10 月 24 日, 構内西側のグラウンド奥の

畑(菜園)付近の外周路(通称, 散歩道)で, 体長 15cm 程度のネズミの死体が見つかった(図版 1, AB)。大型の家ネズミとして, 水場を好むドブネズミ *Rattus norvegicus* と樹上も行き来するクマネズミ *R. rattus* がいる。尾長が頭胴長より短く, 耳も小ぶりで体毛が黄色かかった灰褐色であることから, ドブネズミと同定した(飯島・土屋, 2015)。目立った外傷はなく死因は不明である。構内に落ちていたネズミの死体その後どのようなようになるのか, ネズミの死体にどのような生物が来るのかを調べるために, 見つかった場所から 20m ほど離れた畑付近(地図)に移動し, 自動撮影カメラを設置して様子を観察した(図版 1, DE)。カメラは白井(2017)と同様に, LTLACORN 社の Ltl-6511WMC 850NM を用いた。設定は画像と動画とし, 動画撮影のインターバルは 10 秒とした。期間は 2023 年 10 月 24 日 17 時から 11 月 4 日 17 時までの 11 日間行った。

カメラトラップにより撮影された動物を時系列で表 1 に示す。ヒトを除く 4 種の哺乳類と 1 種の鳥類が記録された。後述するイタチのほか, 構内に生息するイエネコ *Felis silvestris catus* (毛の模様で個体識別できる 3 匹), タヌキ *Nyctereutes procyonoides*, ハクビシン *Paguma larvata*, 鳥類のキジバト *Streptopelia orientalis* である(図版 2, 3)。

ネズミの死体には, 設置時からハエ数匹やアリが集まり(写真 1), その後ハエ幼虫のウジや土壌生物・微生物などによって分解・腐敗され, 一週間後には毛と皮と骨だけになった(写真 2)。トラップカメラを設置した 11 日間は全て晴れで, 練馬区の平均気温は 16.6°C, 最高気温 22.6°C, 最低気温 11.5°C だった(気象庁調べ)。後日, ネズミの骨を回収し, 標本番号 MB08\_03 を付けて保管した。頭骨の側頭稜の形状が膨らまず, ほぼ平行であることから, ドブネズミであることが確かめられた(阿部, 2008 ; 飯島・土屋, 2015)。



写真 1. ハエやアリが集まる (2023/10/25)



写真 2. 11 日後白骨化 (2023/11/3)

表 1. トラップカメラで撮影された生き物とその様子（畑付近，2023/10/24-11/03）

日数	年月日	時刻	生き物	行動・説明	図版写真
2023年					
1日目	10月24日	17:10		撮影開始(ネズミの死体の設置)	図版1D 写真1
		23:54	イエネコ(黒)	通過	
2日目	10月25日	0:45	イエネコ(黒)	ネズミの死体に近づき，臭いを嗅ぐも食わず	図版3D
		2:17	イエネコ(黒)	カメラの前に座り込む	
		15:14	キジバト	落ちている木の実を食べる	
		16:00	生徒(サッカー部)	ネズミの死体が気になる	図版3F
3日目	10月26日	4:28	イタチ	ネズミの死体に近づき臭いを嗅ぎ，口を付ける。 その後，カメラに気づき，立ち上がる行動をしたのちに，速やかに逃げる。	図版2 AとB
6日目	10月29日	1:32	イエネコ(黒)	通過	
7日目	10月30日	22:00	イエネコ(縞)	通過	図版3C
8日目	10月31日	0:41	イエネコ(黒)	通過	
9日目	11月1日	1:48	タヌキ	通過	図版3A
		4:00	ハクビシン	通過	図版3B
		8:40	イエネコ(白黒)	通過	図版3E
11日目	11月3日			撮影終了(ネズミ白骨化)	写真2

### 3. 撮影されたイタチとその行動

撮影されたイタチの詳細について記す。イタチはネズミの死体の設置3日目明朝の2023年10月26日4時27分に撮影された（表1，写真3，図版2）。大きさは，ネズミの死体と同程度の体長（頭胴長）15～20cm程度で，細長い体で，尾に毛がある。それらに加え，短い耳や顔の模様（額中央部から鼻鏡部にかけての濃褐色の斑紋）の特徴からイタチ *Mustela itatsi* と判断した。他の可能性として愛玩動物のフェレットなどが考えられるが，大きさや以下に記す行動などから除外した。イタチは雄より雌の方が小型で性的二型が明瞭である。頭胴長は，雄27-37cm，雌16-25cmとされ（阿部，2008），ネズミの死体と同じくらいの大きさであることに基づく今回撮影された個体は雌に近いサイズである。なお，西日本には移入された亜種のシベリアイタチ（チョウセンイタチ）がいるが，東京都で明らかな記録はなく，カメラ画像では判断できない。



写真3. 撮影されたイタチ

散歩道側（映像の右側）からネズミの死体に近づいたイタチは，死体に興味を示し，鼻を近づけ臭いをかぐ，またはかじろうとする仕草を5秒程度みせたが，トラップカメラに気づいたようで，細い体をくねらせながらカメラに近づき（写真3，図版2A），前足を上げて立ち上がった（図版2B）。その後，急に，もと来た散歩道の方面に向かって走って逃げ去った（動画 URL : [https://youtu.be/Syu60Ljza\\_s](https://youtu.be/Syu60Ljza_s)）。ネズミの死体に近づき，カメラの前にいたの

は 20 秒程度だった。その後、再び現れることはなかった。

カメラに映ったその他の動物の行動についても付記する。タヌキとハクビシンは、ネズミの死体には近づかず興味を示さなかった（設置後 1 週間経ち分解が進んでおり、餌として認識しなかった可能性もある）。ノネコ（黒縞・白黒）も同様であるが、唯一設置 2 日目に撮影された黒色のネコが近づき、匂いを嗅いでいた。その他、キジバトも撮影されたが、近くに落ちている木の実（ケヤキやエノキと思われる）ものを食べており、たまたま撮影されたものとみられる。

#### 4. 撮影のその後と、これまで武蔵学園で確認された小型中型哺乳類

著者は 2016 年頃から学園構内のタヌキやハクビシンなどの食肉目の生息状況を調べるために断続的にカメラトラップを用いているが（白井，2017），これまでイタチが撮影されたことはない。武蔵学園構内に生息する哺乳類はタヌキ、ハクビシン、ノネコ、ネズミ類やコウモリ類で（付録），2019 年にはカメラトラップで初めてアライグマ *Procyon lotor* が撮影され（白井，2020），その後目撃情報もある。今回イタチが確認された畑周辺は、これまでカメラ



写真 4. 畑を歩くアライグマ

を設置したことが少ない場所で、カメラに映ったイタチが偶発的に学園構内に入り込んだものかは不明である。また上グラウンドのサッカーゴールのすぐ裏の道で、しげみに逸失したボールを探すために生徒の往来が多く、踏みしめられている（図版 1，図版 3F）。そのような場所で警戒心の強いイタチが撮影されたことは興味深い。その後の 2023 年 11 月中旬から下旬の数週間、近くの茂みや畑など数日間ごと場所を変えながらカメラを設置して調べたものの、撮影されたものはタヌキとハクビシンのほか、アライグマだけで（写真 4，2023/11/28，4 時 44 分），イタチは撮影されなかった。なお，今年度（2023 年度）畑では中学 2 年生の自然科学 B の授業でトウモロコシとサツマイモの生育を調べていたが，タヌキかアライグマによるとみられる食害が頻発していた。

また，約半年後の 2024 年 3 月 16 日 21 時半頃，濯川櫓橋の下を通る「イタチらしきもの」を目撃したが，後日その正体は疥癬のハクビシンであることが判明した。同年 4 月 8 日の夕方，その場所を歩く疥癬のハクビシンを写真 5 に示した（陰囊が確認できたことから雄個体）。

著者が 2010 年以降に，武蔵学園構内で確認・目撃した小型・中型哺乳類について，予報

として付録にまとめた（主に 2016 年から 2024 年の観察に基づく）。



写真 5. 濯川付近を通る疥癬のハクビシン（2024/04/08 16 時 5 分，櫛橋付近）

## 5. 東京都や練馬区でのイタチの報告

### 東京都内のイタチの分布

東京都環境局自然環境部（2023）の「東京都レッドデータブック 2023」では、ニホンイタチは準絶滅危惧に指定され、その生息域は東京都の西部の丘陵部または区部東部に限られ、区部西部での記録はない。都の西側の丘陵地帯では普通にみられ、八王子市内の河川などで目撃例が多く（繫田・岡崎，2016），多摩川河川敷では目撃情報や糞も確認されている（金子・神田，2019；若林，2022）。区部東部では、水元公園などで記録がある（葛飾区郷土と天文の博物館，1999）。いずれも水域の近い所である。武蔵学園のある練馬区内においては、2012 年に石神井公園でイタチの糞が確認されている（須田ほか，2014）。イタチの行動範囲について、雄は大きな縄張りを持ち、雌は小さな縄張りを持つとされ（佐々木，1990；鈴木，2018），須田ほか（2014）や金子・神田（2019）によれば行動圏は 140m～5 km ほどの範囲，東（1988）の河川敷での調査によれば 2～35ha といわれている。今回見つけた個体が在来であれば意外と限られた範囲で行動しているのかもしれない。なお、近年都心部の大きな緑地，例えば皇居や明治神宮，自然教育園でのイタチの記録はされていない（それぞれ，倉持ほか，2014；釣谷，2013；川田ほか，2019）。

イタチは家屋に住むこともあることから、都市部では害獣駆除業の対象にもなっている。詳細は不明であるが、実際に 2021 年に練馬区内でのイタチの駆除事例も web ページに掲載されている（<https://kujo-service.com/category/results/kanto/tokyo/nerimaku/> 2024 年 2 月 23 日最終確認）。正式な記録はないが、豊島区の巢鴨地蔵などでは、最近（2023 年頃）ネズミの増加に伴い、イタチの目撃情報が増えているとのことである（井上茉優，私信）。

## 都内での過去の記録と分布の変遷

過去の東京都の記録をみると、哺乳類や鳥類の生息域は、急速な都市化に伴い都の西部への退行現象がキツネやタヌキ、ノウサギなどの動物で記されている。それによれば、イタチは練馬区周辺では1964年から1971年ごろに姿を消したとされる(小原, 1982)。1962年ごろに行われた練馬区教育委員会の調査でも、過去に相当数いたとされるイタチは非常に少なくなったとある(練馬区教育委員会, 1964)。その後、カワセミやタヌキなどが都市に戻ってきて目につくこととは異なり、イタチについては情報がないためか、それほど議論されていない。今後、区内での他地域や都内での目撃情報などを集約し、現在の都市の自然の姿を把握することが望まれる。

## おわりに

イタチはネズミを好んで食べることから、ネズミ駆除のために日本各地で移入・導入された経緯がある(長谷川, 1986)。2023年度、武蔵学園構内では例年になく多くのネズミが目撃され、巣穴なども生徒によって多く見つけられ、公衆衛生の観点から殺鼠剤散布なども行われた。構内でのネズミの大量発生は大学2号館の解体(建て直し)と関係し、今回見つけたイタチがこのような構内のネズミの個体数変動と関係していたら興味深い。

もし学園構内にイタチが生息しているならば、他の生物との関係、食性などの生態も気になる。食性については、河川域では魚や両生爬虫類、ネズミ等の脊椎動物を食べ、都市部では昆虫や果実などに偏り人工物は利用していないとする(藤井ほか, 1998; 須田ほか, 2014)一方、島に導入されたイタチの糞からは人工物もみられる(白石, 1982)。タヌキと同じように環境依存的で、その土地にあるものを食しているかもしれない。イタチは水辺でも食事することから、武蔵学園内に流れる濯川などでも確認される可能性があり、水辺での足跡や糞などのフィールドサインがないか注目していきたい。

## 謝辞

武蔵学園の教職員や生徒には、構内の生き物についての情報を教えて頂いた。特に大下茂さん、真板拓巳さんには写真を提供して頂いた。千葉県立中央博物館学芸員の下稲葉さやかさん、日本野鳥の会の井上茉優さん、高田陽さん(88期, 合同会社つくもらぼ)には、イタチの同定の確認や都内のイタチの生息に関する有益な情報を頂いた。疥癬のハクビシンの目撃については高3の島田廉くんら99期生に教えて頂いた。記してお礼申し上げる。なお本研究は、本校の2023年度個人研究費「標本庫で、研究する(その3)」を使用した。

## 付録. 武蔵学園で確認された小型・中型哺乳類 [2016–2024 年]

分類群	種名	目撃	死体	トラップ カメラ	糞	足跡	疥癬	繁殖	備考と出典
翼手目	アブラコウモリ? <i>Pipistrellus abramus</i> ?	○	○	-	-	-	-	-	未調査, 夕方にみられる
食肉目	ホンドタヌキ <i>Nyctereutes viverrinus</i>	○	○	○	○	○	○	○	白井(2017), 飯島ほか(2018), 白井(2020)
	アライグマ <i>Procyon lotor</i>	○	-	○	-	○	-	-	白井(2020)で初確認。現時点で繁殖は未確認。
	イタチ <i>Mustela itatsi</i>	-	-	○	-	-	-	-	本研究
	ハクビシン <i>Paguma larvata</i>	○	○	○	○	○	○	○	屋内に侵入し繁殖している
	イエネコ <i>Felis catus</i>	○	-	○	○	-	-	-	近隣住民により餌付けされている可能性がある
齧歯目	ドブネズミ <i>Rattus norvegicus</i>	○	○	△*1	-	△*1	-	△*2	本研究
	ニホンクマネズミ <i>R. rattus</i>	○	○	△*1	○	△*1	-	△*2	樹木を上り下りしているのを見かける

【凡例】 分類順は阿部(2008)に従った。

○ 確認, - 未確認, △\*1 判別不可, △\*2 おそらくしている(2024年11月構内でネズミ胎児の確認, 乳首が明瞭なメス個体の死体)  
 ※無盲腸目のアズマモグラ *Mogera imaizumii* は2000年代には生息していたらしいが, 現在は消失  
 ※そのほか, 授業の一環として飼育している偶蹄目のヤギ *Capra hircus* がいる(2011年度より総合講座「ヤギの研究」)



a. ケヤキの実を食べるネズミ(2023/10/27 大学3号館北東部). b. 構内に落ちていたアブラコウモリ?の死体(2013/05/06 高中の旧理科棟). c. 捕獲されたハクビシン(2023/02/08 大学9号館屋内). d. 学園創立100周年の日に構内で見かけた疥癬のタヌキ(2022/04/17 大学図書館南). e. 構内から外に出ようとするアライグマ(2022/09/12 大学3号館前の千川通り沿い). 撮影協力: 大下 茂さん(d), 真板拓巳さん(e)

## 引用文献

- 阿部 永 (監修). 2008. 日本の哺乳類 改訂 2 版. 東海大学出版会, 東京. 206pp.
- 東 英生. 1988. 多摩川河川敷におけるイタチの生息状況の把握並びに行動圏の調査 (ラジオテレメトリー法による). とうきゅう環境浄化財団助成研究報告書 115: 1-50.
- 藤井 猛・丸山直樹・神崎伸夫. 1998. 多摩川中流域河川敷におけるニホンイタチの食性の季節的变化. 哺乳類科学 38(1): 1-8.
- 長谷川雅美. 1986. 三宅島へのイタチ放獣 その功罪. 採集と飼育 48(10): 444-447.
- 飯島正広・土屋公幸. 2015. リス・ネズミハンドブック. 文一総合出版, 東京. 88p.
- 金子弥生・神田健冴. 2019. 多摩川中流域の河川敷空間における野生動物のハビタット保全と災害防除の両立に関する検討. 日本緑化工学会誌 44(3): 507-510.
- 葛飾区郷土と天文の博物館. 1999. 小合溜井ー水元公園の自然と文化ー. 葛飾区郷土と天文の博物館, 東京, 103pp.
- 川田伸一郎・長岡浩子・濱尾章二. 2019. 自然教育園の哺乳類 (2018 年). 自然教育園報告 51: 1-5.
- 倉持利明・篠原明彦・小野展嗣・野村周平・神保宇嗣・齋藤寛・長谷川和範・西海功・川田伸一郎・友国雅章・大和田守・清拓哉, 2014. 皇居の生物相 II. 動物相. 国立科学博物館 専報 50: 1-7.
- 練馬区教育委員会. 1964. 練馬区の動物について (野鳥・昆虫を除く). 練馬郷土誌共同研究 3 動物班, 東京, 106pp.
- 小原秀雄. 1982. 東京の哺乳類. 東京の生物史 (沼田眞・小原秀雄, 編). pp.65-73. 紀伊国屋書店, 東京.
- 佐々木浩. 1990. シリーズ日本の哺乳類技術編 哺乳類の捕獲法-中型哺乳類 3 チョウセンイタチとニホンイタチの捕獲法. 哺乳類科学 30: 79-83.
- 繫田真由美・岡崎弘幸, 2016. 哺乳類. In: 八王子市市史編集専門部会自然部会(編). 新八王子市市史自然調査報告書 八王子市動植物目録. 211-216. 八王子市市史編さん室. 東京. 562pp.
- 白井亮久. 2017. 武蔵学園構内におけるホンダヌキの生息状況~“守衛さん”の巡回による目撃情報と痕跡調査に基づく 2016 年度の記録と過去の聞き取り調査~. 武蔵高等学校中学校紀要 2: 33-80.
- 白井亮久. 2020. 武蔵学園で 3 年ぶりに確認されたタヌキの繁殖とセンサーカメラで初めて撮影されたアライグマ. 武蔵高等学校中学校紀要 4: 103-124.
- 白石 哲. 1982. イタチによるネズミ駆除とその後. 採集と飼育 44(9): 414-419.
- 須田知樹・逸見紀章・管野 恵・鈴木 翔・小林 郁. 2014. 多摩川・荒川および両河川に

挟まれた都市部におけるイタチの生息状況. 地球環境研究 16: 37–43.

鈴木 聡. 2018. ニホンイタチ. In 増田隆一 (編). 日本の食肉類 生態系の頂点に立つ哺乳類. 135–153. 東京大学出版会.

東京都環境局自然環境部. 2023. 東京都レッドデータブック (本土部) 2023–東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版–. 東京都環境局自然環境部, 東京. 879pp.

釣谷洋輔. 2013. 明治神宮にみられる哺乳類. 鎮座百周年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書. 161–165.

若林 輝. 2022. 武蔵野発 川っぷち生きもの観察記. ヤマケイ新書, 東京. 287pp.

## 追記.

その後、再び2024年6月末に濯川付近で死んでいたドブネズミを同様の場所に移し撮影したが、わずか数日で分解され、イタチと思われる小動物は撮影されなかった。ネズミ死体の分解経過を図1に示す(標本番号MB08\_04として保管した)。



図1. ネズミの分解過程 (2024年度 中1自然科学A「気まぐれ武蔵自然観察」より)

\*\*\*\*\*

Akihisa SHIRAI (2024) The first camera trap record of a Japanese weasel *Mustela itatsi* on the Musashi Academy Campus and the mammalian fauna of the campus. The Musashi Bulletin 8: 129–142.

<Abstract>

In October 2023, a small animal thought to be a weasel was observed in a camera trap at Musashi Academy Campus in Nerima Ward, Tokyo. Since there is little information on the presence of weasels in the western part of Tokyo, I documented this finding along with the circumstances surrounding its capture. In addition, a list of small and medium-sized mammals currently known to inhabit the school premises is also included.

\*\*\*\*\*

### 図版 1. ネズミの死骸が見つかった場所と、イタチが撮影された場所



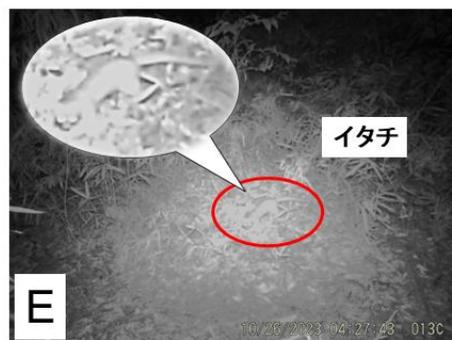
A. ネズミの死骸が見つかった散歩道  
B. ドブネズミの死骸の様子 [2023/10/24]



C. 武蔵学園全景（東京都練馬区豊玉上）（※2022年以前の航空写真で、まだ大学11号館がない）

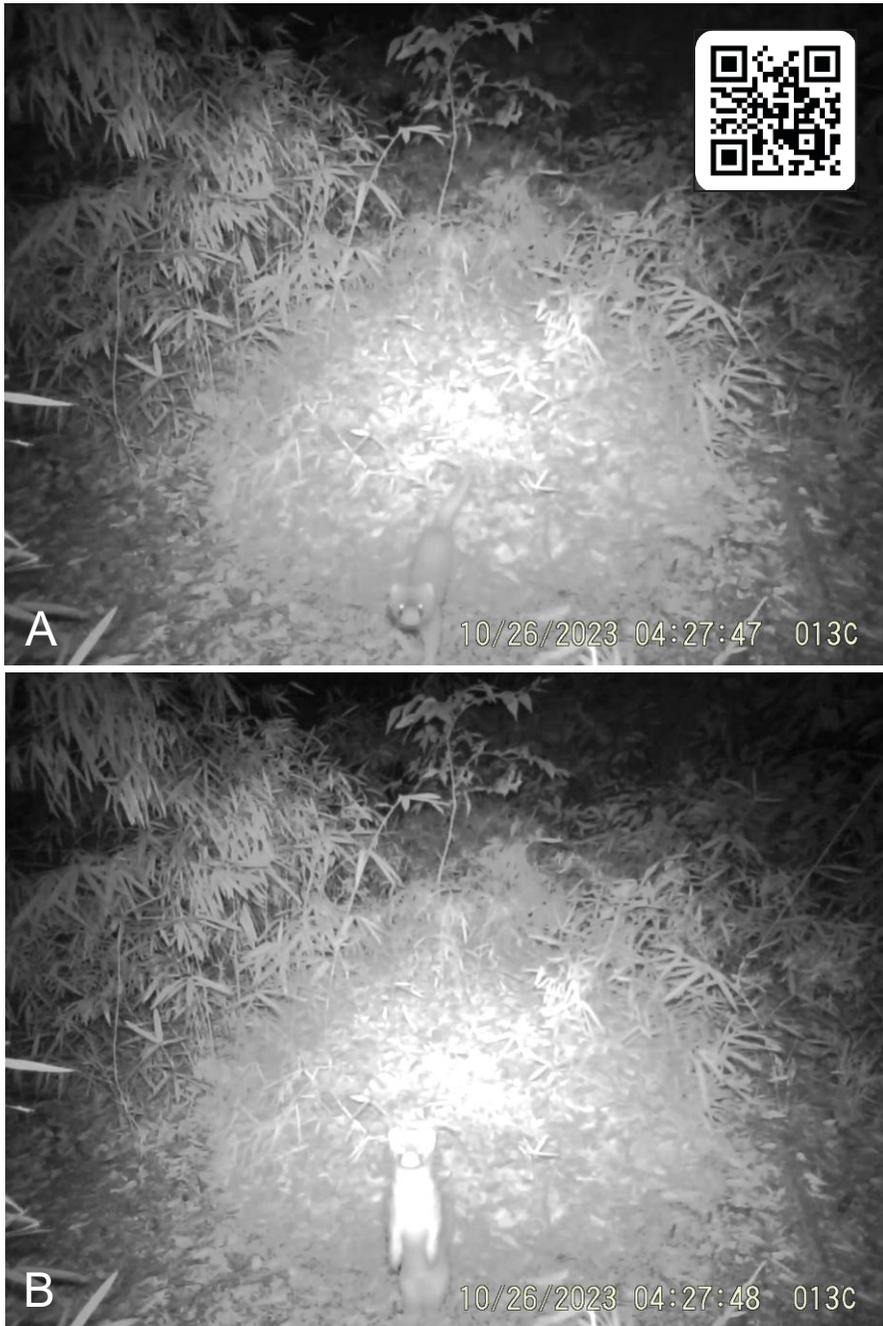


D. トラップカメラの設置の様子



E. ネズミの死骸に近づくイタチ [2023/10/26 4:27, トラップカメラ画像]

図版 2. トラップカメラで撮影されたイタチ (2023 年 10 月)



(動画 14 秒, URL: [https://youtu.be/Syu60Ljza\\_s](https://youtu.be/Syu60Ljza_s))

A. カメラに近づく B. 立ち上がる。この後、逃げて行った。

図版3. トラップカメラで撮影されたイタチ以外の哺乳類 (2023年10月)



A. タヌキ.



B. ハクビシン.



C. イエネコ (縞).



D. イエネコ (黒) ネズミ死骸に近づく.



E. イエネコ (白黒).



F. ヒト (サッカー部の部員)

【イタチの参考写真】

ニホンイタチ（千葉県茂原市で撮影，2009年8月27日15時17分）



※全て同一個体